

経営計画の取組状況【平成22年度】

1 広島病院 (1) 評価表(その1)

①【評価表 別紙 A3】

1 具体的取組

番号	取組方針	取組項目	実績総括	自己評価	委員会評価(案)	委員会意見(取りまとめ案)
1 政策医療機能						
1	救急機能の強化	略	略	◎	◎	救急科医師の増員やトリアージナースの本格稼働などの体制強化を順調に進め、救急患者数や救急車受入件数の著明な増加実績をあげており、評価できる。
2	周産期医療提供体制の強化	略	略	◎	◎	帝王切開やハイリスク分娩、生殖医療などの総合的に困難なケースや、複数有する中四国唯一の機能など、高水準の医療を広域に提供しており、成育医療における体制と実績は、名実ともに全国トップクラスであり、高く評価できる。 今後は、広島病院の成育医療センターと県内外との連携状況を利用者に分かりやすく広報していただきたい。
3	がん診療機能の強化	略	略	○	○	がん診療実績は拡大しており、また、薬物療法専門医の育成に優れた結果を残している。広島県が掲げる「がん対策日本一」の取組の一つとして、緩和ケア支援センターを中心とした広島県全体の緩和ケア推進に取り組んでおり、高く評価できる。「がん対策日本一」を掲げる広島県の県立病院として、総合的ながん対策の中枢拠点としての役割を期待したい。
2 医療人材の育成・派遣機能						
4	人材の確保・教育・派遣	略	略	○	○	3.9倍の初期研修医応募と100%のマッチング率、広島県唯一の乳がん看護認定資格の取得など、人材確保に努めており、評価できる。取組項目に掲げている女性医師の勤務条件の改善について、更なる具体的な取組を進められることを期待する。
5	医療の安全と質の向上	略	略	○	○	医療安全体制については、整備が図られ、着実に計画が実行されている。クリニカルインディケータの作成・公表は、他県の参考となるほどに先行性があり、高く評価できる。相談体制として、現状のMSW2名は少なく、充実が必要。
3 患者サービスの向上と経営の効率化						
6	患者サービスの向上	略	略	◎		年19回の地域巡回講演会開催は、高く評価できる。療養環境改善を進め、患者サービスの向上に努めているが、「患者が本当に求めている快適な病院作りのために、できることは何か」という視点に立って、院内での生活の質を高める取組がされると更に良い。その一環として、笑顔、挨拶の更なる徹底が必要。

委員評価	委員意見(各意見)
◎6	<ul style="list-style-type: none"> ◆救命救急センターの機能強化は順調に進んでおり、稼働実績も拡大傾向にあることを高く評価。 ◆救急科医師の増員やトリアージナースの本格稼働など体制整備に努めた結果、救急患者数や救急車受け入れ件数等が著明に増加しており、評価できる。 ◆救急科医師の増員、救急搬送実績とも評価できる。 ◆体制整備が図られており、救急医の確保等課題への今後の取組も具体的である。一方で、医療機関へのアンケートでの「不満」の一位に掲げられた「紹介患者の断り(20.0%)」の多くは急患受け入れに関してであることから、地域連携の充実のためにもさらなる努力を期待する。
◎5 ○1	<ul style="list-style-type: none"> ◆中四国唯一の機能を複数有しており、総合的に困難なケースを担当している点は、高水準の医療を広域に提供するという県立病院の本来の意義を具現化するものとして高く評価。 ◆総分娩件数は減少したものの、帝王切開やハイリスクの分娩件数、生殖医療件数は増加し、また、助産外来を新たに開設するなど、成育医療における体制と実績は、名実ともに全国トップクラスであり、高く評価できる。 ◆評価する。 ◆成育医療センターの運営が順調に行われている。こども病院については、広島病院に対応できない場合には県内あるいは県外の病院の紹介がなされているようであるが、その実情は利用者には分からない状況にあることから、全体の体制を調えた上で、広報に努めていただきたい。
◎1 ○5	<ul style="list-style-type: none"> ◆がん診療についての実績の拡大を高く評価した。 ◆薬物療法専門医の育成に優れた結果を残している。 ◆緩和ケア支援センターを中心にして、広島県全体の緩和ケア推進に取り組んでおり、高く評価できる。 ◆評価する。 ◆広島県が「がん対策日本一」を掲げていることから、県立広島病院への県民のがん治療への期待は高まっていると考えられる。県立病院として、総合的ながん対策の中枢拠点としての役割を期待する。
○6	<ul style="list-style-type: none"> ◆医師の確保・教育・派遣について計画通り進んでいるものと判断した。 ◆3.9倍の初期研修医応募と100%のマッチング率、広島県唯一の乳がん看護認定資格の取得など、人材確保に努めており、評価できる。 ◆評価する。 ◆概ね現状において、なし得ることを努力されている。女性医師の勤務条件の改善を取組項目に掲げられているので、更なる具体的な取組を進められることを期待する。
◎1 ○5	<ul style="list-style-type: none"> ◆取組内容については、着実に計画が実行されていることに加え、クリニカルインディケータについては、他県の参考となるほどに先行性がある点を高く評価。 ◆臨床評価指標の作成・公表やDPC地域医療係数の全国最高ランク入りは、高く評価できる。 ◆評価する。 ◆医療安全体制については、整備が図られている。相談体制につき、MSWが病院全体で2名は少ない。MSW育成の観点からも、地域連携センターの体制案の早期実現を求める。
◎3 ○3	<ul style="list-style-type: none"> ◆地域巡回講演を高く評価。今後の内容の充実と出講地域の拡大を期待する。 ◆個室トイレの改修、ロビーソファの更新、待合室デイルームへのテレビ設置など、患者サービスの向上に努めている。年19回の地域巡回講演会開催は、評価できる。 ◆笑顔、挨拶の更なる徹底が必要。 ◆患者やその家族の意見を拝見すると、疾患を抱えた方にとって、病院はまさに生活の場だと実感する。高度医療はもちろんのことながら、担当者(医師、看護師等)との心通うコミュニケーション、食事、風呂、さらに病棟の掃除等、患者及びその家族は院内での基本的な生活の質を今より少し高められたらと望んでいるように思われる。「患者が本当に求めている快適な病院作りのために、できることは何か」という視点に立って、対応の優先順位を検討されると更に良い。

経営計画の取組状況【平成22年度】

1 広島病院 (1) 評価表(その2)

番号	取組方針	取組項目	実績総括	自己評価	委員会評価(案)	委員会意見(取りまとめ案)	
3 患者サービスの向上と経営の効率化							
7	経営の効率化	増収対策	略	略	◎	◎	新たな施設基準や管理加算の取得やDPC制度の戦略的活用をはじめとした、様々な増収対策の結果、平成22年度の医薬収益は前年度に比べて大幅に増加しており、高く評価できる。
8		費用合理化対策	略	略	◎	◎	コンサル会社の協力の下、多様な購買方法への挑戦を行い、薬剤費と診療材料費及び保守委託料の削減に努め、大きな成果を得ており、高く評価できる。
9		経営機能の強化	略	略	○	○	病院事業管理者裁量枠の設置や職員定数の見直しなど、「制度の壁」のブレイクスルーに努めており、高く評価できる。広島病院の現状と努力状況について、職員全体で更なる意識共有が図られ、患者の利便を損なうことなく、経営効率を図られると良い。
4 連携強化							
10	地域連携状況等	略	略	○	○	◎	病院からの情報発信や地域医療機関のニーズの把握に努め、紹介率・逆紹介率とも高レベルを維持しており、評価できるが、医療機関アンケートで不満があるとの回答が多いことは大きな課題。返書報告の遅延は改善可能であり、即座に取組むべきである。
11	(2病院)協力状況	略	略	○	○	○	平成23年度から医薬品共同購入に取り組んでおり、また、様々な職種職員が安芸津病院の支援に向くなど、物的・人的協力関係が、進みつつあり評価できる。更に相互協力を進め、効率化と相互補完を進めていただきたい。

委員評価	委員会意見(各意見)
◎5 ○1	◆様々な取組みが功を奏した点を高く評価する。 ◆新たな施設基準や管理加算の取得やDPC制度の戦略的活用をはじめとした、さまざまな増収対策の結果、平成22年度の医薬収益は前年度に比べて大幅に増加した。
◎6	◆従来の入札一辺倒から、多様な購買方法への挑戦を行っている点を高く評価する。 ◆コンサル会社の協力の下、薬剤費と診療材料費および保守委託料の削減に努め、大きな成果を得ている。 ◆材料、医薬品の消費税や薬価差の評価はどのようになっているか不明。
◎1 ○4 △1	◆管理者権限の組織内での委譲が伺えない点を低く評価した。 ◆病院事業管理者裁量枠の設置や職員定数の見直しなど、「制度の壁」のブレイクスルーに努めており、高く評価できる。 ◆患者の利便を損なうことなく、経営効率を図られるよう希望する。また、広島病院の現状と努力状況について、職員全体で更なる意識共有が図られると良い。
○6	◆紹介率の高さは高く評価できるが、不満の多さは大きな課題である。 ◆返書報告の遅延は即座に改善可能。 ◆病院からの情報発信や地域医療機関のニーズの把握に努めており、紹介率・逆紹介率とも高レベルを維持している。 ◆経営的視点からは、地域のクリニック等かかりつけ医との連携(いわゆる縦の連携)が重要と思われるが、のみならず広島県全体の医療拠点として広島病院を捉え、他の大規模病院相互の強みを活かす形での、いわば横の連携も進めていただきたい。
○5 △1	◆安芸津病院への機会や人材の応援は高く評価できるところであるが、安芸津病院からの受け入れについての協力体制が示されていない点で、不十分であると判断した。 ◆平成23年度から医薬品共同購入に取り組んでいる。さまざまな職種職員が安芸津病院の支援に向いている。 ◆物的・人的協力関係が、進みつつある。更に相互協力を進め、効率化と相互補完を進めていただきたい。

2 取組結果

5 決算、目標指標							
12	収支改善、目標指標	略	略	◎	◎	◎	10項目中9項目の目標指標を達成し、その結果としての2年連続経常黒字決算は、高く評価できる。

◎6	◆経常収支の2年連続黒字達成は高く評価されるべき。 ◆おむね好調と評価できる。 ◆10項目中9項目での目標達成と、その結果としての2年連続経常黒字決算は、高く評価できる。
----	---------------------------------------------------------------------------------------------

総合評価							
					○	◎	非常に良く努力し、自治体病院に課せられた「公共性の確保」と「経済性の発揮」という、相反する命題を見事に満たしている。その医学的水準の高さや人材育成の取組み等には目を見張るものがあり、広島県下は言うに及ばず、全国自治体病院のリーディング・ホスピタルとして、地域社会に貢献しており、高く評価できる。広島県全体の医療政策実現に向けての推進役として、発揮している県立病院事業の能力について、理解と強調が不可欠である。

◎2 ○4	◆広島病院を一事業体としてみると、その医学的水準の高さや人材育成の取組み等には目を見張るものがあり、高く評価されるべきである。しかし、広島県全体の医療を考えると、現在そして将来において、その能力を発揮することが期待される課題も想定されるところであり、県の医療政策実現に向けての推進役としての県立病院事業への理解と強調が不可欠であると確信する。 ◆非常に良く努力している。 ◆自治体病院に課せられた「公共性の確保」と「経済性の発揮」という相反する命題を見事に満たしており、広島県下は言うに及ばず、全国自治体病院のリーディング・ホスピタルとして、地域社会に貢献している。 ◆高度医療と高収益を両立している。
----------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

経営計画の取組状況【平成22年度】

2 安芸津病院 (1) 評価表(その1)

1 具体的取組

番号	取組方針	取組項目	取組実績	自己評価	委員会評価(案)	委員意見 (取りまとめ案)
1 政策医療機能						
1	安芸津病院の機能検討	略	略	○	○	再定義された基本理念である「地域が一体となった医療提供体制の構築」という明確な方向性を示され、包括的な地域医療の実践に向けての具体的な取組がなされており、高く評価できる。今後は、成果とその検証を進められることを期待する。
2	政策医療の実施	略	略	○	○	勤務医不足に難渋しながらも、各診療科で助け合い、かつ、広島病院の支援を受けながら、救急医療・小児医療を維持しており、高く評価できる。今後は、非都市部における地域医療の実践について、モデル事業的なチャレンジが必要である。
2 医療人材の育成・派遣機能						
3	人材の確保・教育・派遣	略	略	○	○	限られた人員にあって、近隣病院への手術指導等、地域のレベルアップ等にも貢献していることは注目に値する。本年度より開始している、広島病院初期研修医の期間限定の受け入れと指導医の育成に期待したい。
4	医療の安全と質の向上	略	略	○	○	紹介率・逆紹介率は向上するなど、次のステップへ移行する準備ができたものとして評価できるが、「地域が一体となった医療提供体制(相互補完体制)」構築には、今少し距離がある。本年度中に導入予定の電子カルテシステムにより、医療の安全と質の向上への貢献を期待したい。
3 患者サービスの向上と経営の効率化						
5	患者サービスの向上	略	略	◎	◎	意見箱に対する丁寧な対応や待ち時間対策など、なし得る努力が図られており、また、「医療講演会」や「出前講座」の開催、役場広報誌への寄稿、住民の院内委員会への参加など、地域住民に対する啓発活動が積極的に行われ始めており、患者・住民-医療者のパートナーシップ醸成に熱心に努めている点は、高く評価できる。例えば笑顔など、ソフト部分はより一層重視を。

委員評価	委員意見 (各意見)
◎2 ○4	◆包括的な地域医療の実践に向けての様々な取組がなされたことを高く評価する。 ◆基本理念が再定義され、「地域が一体となった医療提供体制の構築」という明確な方向性が示されており、評価できる。 ◆基本理念を再定義され、その上で、具体策を多くあげられています。今後は、成果とその検証を進められることを期待する。
◎2 ○4	◆安芸津病院における政策医療が救急と小児に限定されて理解されている点については低い評価とした。非都市部における地域医療の実践について、モデル事業的なチャレンジが必要であると考えます。 ◆勤務医不足に難渋しながらも、各診療科で助け合い、かつ、広島病院の支援を受けながら、救急医療・小児医療を維持しており、高く評価できる。 ◆現状でなしうる取組はなされている。難しいことは承知しているが、中期的な見通しを立てられたら、と思う。
○6	◆限られた人員にあって、近隣の病院への医師の応援派遣は注目に値する。 ◆本年度より、広島病院初期研修医の期間限定の受け入れと指導医の育成を開始しており、今後に期待したい。 ◆近隣病院への手術指導等、地域のレベルアップ等にも貢献されている。
○6	◆次のステップへ移行する準備ができたものとして高く評価した。 ◆本年度中に電子カルテシステムを導入予定であり、医療の安全と質の向上への貢献を期待したい。 ◆民間との住み分けが必要と考える。 ◆紹介率・逆紹介率は向上しているものの、「地域が一体となった医療提供体制(相互補完体制)」構築には、今少し距離があるように思う。
◎5 ○1	◆地域住民に対する啓発活動が積極的に行われ始めたことを高く評価する。 ◆「医療講演会」や「出前講座」の開催、役場広報誌への寄稿、住民の院内委員会への参加など、患者・住民-医療者のパートナーシップ醸成に熱心に努めており、高く評価できる。 ◆ハードもそうだが、ソフトにより重きを！例えば「笑顔」。 ◆意見箱に対しては、丁寧な対応が図られている。待ち時間対策については、予約時刻による調整等、なし得る努力が図られている。

経営計画の取組状況【平成22年度】

2 安芸津病院 (1) 評価表(その2)

番号	取組方針	取組項目	取組実績	自己評価	委員会評価(案)	委員意見 (取りまとめ案)
3 患者サービスの向上と経営の効率化						
6	経営の効率化	増収対策	略	略	○	医師の欠員という厳しい状況の中で、新たな診療報酬管理加算の取得や病床利用率の向上、平均在院日数の短縮など、増収に向けて積極的に取り組んだ結果、入院収益は前年度に比べて約3,100万円の増収となっており評価できる。
7		費用合理化対策	略	略	○	薬品費、材料費、人件費、委託費、そして経費の比率がどのように改善されたか示されておらず、判定できないが、加算の届出や安全対策との結びつきが意識されつつ合理化が進められている。
8		経営機能強化	略	略	○	病院事業管理者裁量枠の設置や看護職の副院長への登用など、経営機能の強化に努めている。また、資料分析などが進められて、組織運営の基盤となる会議体が機能し始めたと思われ、評価できる。
4 連携強化						
9	(2病院)協力状況	略	略	○	○	医療機能充実のための広島病院からの診療支援や研修医受け入れ、職員資質向上のための研修講師の招聘など、広島病院との協力体制が整備されつつあるが、広島病院への貢献は少ない。

委員評価	委員意見 (各意見)
◎1 ○4 △1	◆医師の欠員状況にあつて増収に向けた努力が行われ、結果も伴った点を高く評価した。 ◆新たな診療報酬管理加算の取得、病床利用率の向上、平均在院日数の短縮などに積極的に取り組み、入院収益は前年度に比べて約3,100万円の増収となっている。 ◆厳しい状況の中で、何とか患者数を維持している努力が窺われる。
○5 △1	◆金銭的に費用の合理化が示されているわけではないが、加算の届出や安全対策との結びつきが意識されつつ合理化が進められている点を高く評価した。 ◆さまざまな費用合理化対策が講じられているものの、その成果としての薬品費、材料費、人件費、委託費、そして経費の比率がどのように改善されたか示されておらず、判定できない。
○6	◆組織運営の基盤となる会議体が機能し始めたものとして高く評価した。 ◆病院事業管理者裁量枠の設置や看護職の副院長への登用など、経営機能の強化に努めている。 ◆会議や資料分析などが進められている。今後は、その結果としてどのような方針を立てられたのかを伺いたい。
○5 △1	◆広島病院への貢献が少ない点を低く評価した。 ◆医療機能充実のための広島病院からの診療支援や研修医受け入れ、職員資質向上のための研修講師の招聘など、広島病院との協力体制が整備されつつある。

2 取組結果

5 決算、目標指標						
10	収支改善、目標指標	略	略	○	○	病床利用率、入院患者数ともに増加し、その結果、単年度赤字額は減少しており、改善傾向にあり評価できるが、更なる努力は必要。

○5 △1	◆平成25年の最終目標に向かって、改善傾向にあることを高く評価した。 ◆病床利用率、入院患者数ともに増加し、その結果、単年度赤字額は減少している。 ◆改善傾向にあるので、更なる努力に期待する。
----------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------

総合評価					○	「勤務医不足」という困難に直面しているが、限りある医療資源を有効活用しながら、地域特性を反映した医療の提供や様々な取り組みに努めており、かつ、収支の改善傾向を実現している点は評価できる。
------	--	--	--	--	---	-----------------------------------------------------------------------------------------------

○6	◆政策的な効果が示されているわけではないが、内部資源が限られている状況にあつて、様々な取り組みを行い、かつ、収支の改善傾向を実現している点は高く評価できる。 ◆非常に良く努力していることが理解できる。 ◆「勤務医不足」という困難に直面しているが、限りある医療資源を有効活用しながら、地域特性を反映した医療の提供に努めており、評価できる。 ◆今後取組の成果を拝見したい。
----	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------